

- 問1 3世紀の弥生時代、邪馬台国の女王である卑弥呼が行った外交について述べた文として、最も適切なものを選択してください。（2015年 佐賀県公立入試 類似）
1. 中国の漢（後漢）に使いを送り、光武帝から「漢委奴国王」の金印を授かった。
 2. 中国の宋（南朝）に使いを送り、朝鮮半島南部での軍事的な指揮権を認められた。
 3. 中国の隋に小野妹子を遣隋使として派遣し、対等な外交関係を求めた。
 4. 中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった。
- 問2 1世紀、3世紀、5世紀の倭（日本）の勢力が行った中国への朝貢について述べた文として、正しいものはどれか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
1. 5世紀、倭の五王が魏へ使いを送り、朝鮮半島における軍事的な立場を認めさせようとした。
 2. 5世紀、奴国の王が南朝の宋へ使いを送り、金印を授けられた。
 3. 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を授けられた。
 4. 3世紀、邪馬台国の卑弥呼が後漢へ使いを送り、「親魏倭王」の称号を授けられた。
- 問3 弥生時代の吉野ヶ里遺跡などに見られる、高い木材を組み上げ周囲に柵を張り巡らせた「物見やぐら」が作られた背景として、当時の社会状況を正しく説明しているものはどれですか。（2016年 岐阜県公立入試 類似）
1. 大陸から伝わった仏教の儀式を行うため、天に近い高い場所で祈りを捧げる必要があったため。
 2. 天皇を中心とした中央集権体制が確立し、地方の豪族がその権力を誇示するために建設したため。
 3. 高床倉庫に保管した穀物がネズミの被害に遭わないよう、高い場所ですべてに監視を行うため。
 4. 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。
- 問4 弥生時代に本格的に始まった稲作において、実った稲の穂先のみを摘み取って収穫するために使われた磨製石器を何というか。（2016年 奈良県公立入試 類似）
1. 石鏃
 2. 石匙
 3. 石包丁
 4. 打製石斧
- 問5 出土した人骨の統計において、縄文時代に比べて弥生時代は武器などによる傷を受けた割合が高いことが分かっています。こうした背景から、当時の人々が敵の侵入を防ぐために、居住域の周囲に深い堀や溝を巡らせた集落を建設しました。この防御的な構造を持つ集落を何と呼びますか。（2024年 北海道公立入試 類似）
1. 竪穴住居
 2. 高床倉庫
 3. 前方後円墳
 4. 環濠集落
- 問6 弥生時代の遺跡から発掘された人骨の中には、石の鏃（やじり）が刺さっていたり、鋭利な刃物によるものと思われる殺傷跡が残っていたりするものが多数見つかっています。このような人骨の発見から、当時の社会状況について推測されることとして最も適切なものはどれですか。（2022年 沖縄県公立入試 類似）
1. 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと
 2. 古墳と呼ばれる巨大な墓を造るために、強制的な労働によって多くの犠牲者が出たこと
 3. 青銅器である銅鐸や銅鏡を、死者の権威を示すための副葬品として埋葬し始めたこと
 4. 狩猟や採集を中心とする生活の中で、獲物を奪い合うための小規模な小競り合いが増えたこと
- 問7 中国の歴史書『魏志倭人伝』の中で、邪馬台国の女王が即位した経緯や背景について説明した一節があります。その内容として最も適切な説明を次から選びなさい。（2026年 岐阜県公立入試 類似）
1. それまでの世襲制を廃止し、中国の皇帝による直接的な任命によって、最も外交能力の高い女子を王とした。
 2. もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。
 3. 大規模な干ばつや飢饉が続いたため、農業の神に仕える特別な血筋を持つ女子を王とした。
 4. 仏教の教えを広めることで民衆の心を安定させるため、優れた徳を持つ女子が大陸から招かれて王となった。
- 問8 紀元1世紀ごろ、日本の小国の王が、中国の皇帝に対して貢ぎ物を送る「朝貢（ちょうこう）」を行い、金印を授けられた主な理由や背景として、最も適切な説明はどれですか。（2023年 長崎県公立入試 類似）
1. 中国の皇帝から王としての地位を認めてもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。
 2. 大陸で勢力を強めていた高句麗に対抗するため、中国と軍事同盟を結ぶ必要があったため。
 3. 中国の進んだ仏教文化を日本に導入するために、僧侶を派遣する正式な許可を得るため。
 4. 日本国内の統一を成し遂げたことを報告し、中国への輸出関税を免除してもらうため。
- 問9 3世紀の弥生時代、倭の邪馬台国の女王である卑弥呼がおこなった外交について述べた文として、正しいものはどれか。（2017年 東京都公立入試 類似）
1. 中国の魏の皇帝に使いを送って絹などを贈り、親魏倭王の称号と金印を授けられた。
 2. 冠位十二階を定めて個人の才能や功績に応じた位を与え、中国との交流を深めた。
 3. 大宝律令によって定められた「調」という税として、各地から絹などの布を集めた。
 4. 平清盛が大輪田泊を修築したことで、中国との間でさかんに貿易が行われるようになった。
- 問10 弥生時代の文化を象徴する遺物である「銅鐸」について、その使用目的や出土傾向を正しく説明しているものはどれか。（2024年 京都府公立入試 類似）
1. 実際の戦いや狩猟で使用するための実戦的な武器として、東日本を中心に広く普及した。
 2. 縄文時代から続く伝統的な風習において、死者を埋葬する際に手足に装着する装身具として使われた。
 3. 最新の農耕技術を伝えるための道具として、兵庫県や島根県などの沿岸部のみで限定的に使用された。
 4. 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。
- 問11 弥生時代に大陸から伝わった金属器のうち、銅剣や銅矛、銅鐸などの青銅器は、時代が進むにつれて本来の武器としての役割から変化し、どのような目的で用いられるようになりましたか。（2020年 沖縄県公立入試 類似）
1. 仏教の教えを広めるための儀式用具
 2. 巨大な古墳を築造するための土木用具
 3. 定期市で品物を交換するための貨幣
 4. 豊作などを祈るための祭りの道具
- 問12 福岡県などの遺跡から出土した、中央につまみがあり周囲に精密な文様が施された円形の銅鏡について、この道具が当時の社会で果たしていた役割として正しく述べているものはどれですか。（2026年 北海道公立入試 類似）
1. 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした
 2. 文字を刻んで記録を残すための記録媒体として、役所などで管理されていた
 3. 身分を問わず、弥生時代の全ての人々が護身用の盾として日常的に持ち歩いた
 4. 非常に硬い性質を持っていたため、山林を切り拓くための斧として全国で普及した
- 問13 邪馬台国の女王が中国の魏の皇帝に使者を送った際、皇帝から授けられたとされる称号と、その証として贈られた品物の組み合わせとして適切なものを選びなさい。（2025年 長野県公立入試 類似）
1. 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡
 2. 「倭王」の称号と、百済から贈られた七支刀
 3. 「漢委奴国王」の称号と、志賀島で発見された金印
 4. 「日本国王」の称号と、明との貿易に用いられた勘合符

答え合わせ・解説

問1	答え 4 中国の魏に使いを送り、「親魏倭王」の称号や金印、銅鏡などを授かった。	3世紀、多くの小国が争っていた日本（倭）において、邪馬台国の卑弥呼は中国の魏に使いを送りました。このことは中国の歴史書『魏志』倭人伝に記されています。卑弥呼は魏の皇帝から「親魏倭王」の称号とともに、金印や多数の銅鏡（三角縁神獣鏡など）を授かることで、その権威を背景に国内の統治を安定させようとしていました。他の選択肢にある漢との外交は1世紀（奴国の王）、宋との外交は5世紀（倭の五王）、隋との外交は7世紀（聖徳太子ら）の出来事であり、時代が異なります。
問2	答え 3 1世紀、奴国の王が中国の後漢へ使いを送り、皇帝から金印を授けられた。	1世紀には、九州の奴国の王が後漢の光武帝に使者を送り、「漢委奴国王」と刻まれた金印を授かりました。3世紀に魏へ使いを送ったのは邪馬台国の卑弥呼であり、5世紀に南朝の宋へ使いを送ったのは倭の五王です。それぞれの時代における「倭の勢力」と「中国の王朝」の組み合わせを正確に把握する必要があります。
問3	答え 4 稲作の普及により土地や水をめぐる争いが増え、集落を守るための防御機能が必要になったため。	弥生時代には稲作が本格化し、蓄えられた食料や、稲作に適した土地・水をめぐる集落間の争い（戦争）が発生するようになりました。吉野ヶ里遺跡で見られる深い堀（環濠）や、高い場所から敵の侵入をいち早く察知するための物見やぐらは、集落を外敵から守るための軍事的な役割を果たしていました。仏教の伝来や中央集権体制の確立は、のちの飛鳥時代以降の出来事です。
問4	答え 3 石包丁	稲作が普及した弥生時代を代表する農具の一つです。当時は稲の品種が統一されておらず、一粒一粒の熟し方が異なっていたため、実ったものから順に摘み取る「穂首刈り」が行われていました。その際に使用されたのが、この磨製石器です。
問5	答え 4 環濠集落	集落の周りに堀（溝）を巡らせた環濠集落は、佐賀県の吉野ヶ里遺跡などに代表される弥生時代の特徴的な集落形態です。受傷人骨の増加という考古学的な事実とあわせて、当時の社会が常に争いの危険にさらされていたこと、そして集落が共同体として自衛機能を持っていたことを示しています。
問6	答え 1 水田稲作の普及にともない、土地や水をめぐる集落間の争い（戦い）が激しくなったこと	弥生時代に始まった水田稲作は、安定した収穫を得るために良好な土地の確保や用水路の管理が不可欠でした。これにより、資源をめぐる集落同士の利害対立が生まれ、人骨に残された殺傷跡や頭部のない人骨は、武力を用いた激しい争い（戦い）が日常的に行われていたことを物語っています。縄文時代にはこうした殺傷跡のある人骨は稀であり、生産活動の変化が社会構造を大きく変えたことを示しています。
問7	答え 2 もともと男子を王としていたが、国の中が乱れて数年も互いに攻め合ったため、一人の女子を王とした。	史料には「その国、本また男子を以て王となし、住まること七、八十年。倭国乱れ、相攻伐すること歴年、乃ち共に一女子を立てて王となす」という記述があります。これは、2世紀後半に起こったとされる「倭国大乱」という戦乱状態を収拾するために、呪術的な権威を持つ卑弥呼を王に立てることで、諸国の連合体としての安定を図ったことを示しています。
問8	答え 1 中国の皇帝から王としての地位を認めもらうことで、国内における支配の正当性を高めるため。	当時の日本（倭）は多くの小国が分立しており、各地の有力者は自らの権威を強めるために、強大な権力を持つ中国の皇帝に使者を送りました。皇帝から「王」として認められ、その証として金印や銅鏡などの貴重な品を授かることは、周辺の他の勢力に対して自らの支配力の正当性を示す大きな強みとなりました。
問9	答え 1 中国の魏の皇帝に使いを送って絹などを贈り、親魏倭王の称号と金印を授けられた。	3世紀前半、邪馬台国の女王であった卑弥呼は、中国の三国時代のひとつである「魏」に使いを送り、貢ぎ物を贈る「朝貢」を行いました。これにより、魏の皇帝から「親魏倭王」という称号と、金印、銅鏡などを授かりました。これは、中国の王朝から認められることで、国内における自らの支配力を高める狙いがあったと考えられています。他の選択肢にある「冠位十二階」は飛鳥時代の聖徳太子、「大輪田泊」は平安時代末期の平清盛、「大宝律令」は奈良時代直前の制度であり、時代が異なります。
問10	答え 4 豊作を祈るための祭りの道具として用いられ、滋賀県や和歌山県を含む近畿地方で多くの出土が確認されている。	青銅器はもともと大陸では武器や工具として使われていたが、日本に伝わると祭祀用の道具（祭器）として大型化・薄肉化した。銅鐸はその代表例であり、出土数の統計においても兵庫県、島根県、徳島県に次いで、滋賀県や和歌山県といった近畿圏で多く見つかったことが特徴である。
問11	答え 4 豊作などを祈るための祭りの道具	大陸から稲作の技術とともに伝わった青銅器は、当初は武器としての形を持っていましたが、次第に大型化・薄型化していきました。これは実戦で使うためではなく、村のまとまりを強めるための祭りや儀式において、神を祀るための「祭具（祭礼具）」として重宝されるようになったためです。
問12	答え 1 光を反射させる性質を利用し、強力な権威を持つ者が自らの地位を象徴する宝物とした	青銅器の一種である銅鏡は、当時の高度な技術によって精密な文様が施されており、その希少性から特定の有力な指導者の持ち物であったと考えられています。このような貴重な金属器を所有し、祭祀などで用いることは、指導者が超自然的な力や大陸とのつながりを持っていることを周囲に示すことになり、その地位の正当性を裏付ける役割を果たしていました。
問13	答え 1 「親魏倭王」の称号と、金印や銅鏡	卑弥呼は魏の皇帝から「魏に親しい倭の王」を意味する「親魏倭王」の称号を授かりました。その際、権威を象徴する品として金印や100枚の銅鏡などが贈られ、これらを利用して国内の統治を有利に進めようとしたと考えられています。なお、「漢委奴国王」の金印は1世紀（後漢の時代）の出来事です。